



UNITED NATIONS
UNIVERSITY

UNU-IAS

Institute for the Advanced Study
of Sustainability

UNEPフォーラム
2018

SDGsに向けた国連大学の取り組み ～これからの民間企業との連携～

2018年3月20日

竹本 和彦

国連大学サステナビリティ高等研究所長

SDSN Japan事務局長



本日のお話



1. SDGs達成に向けた内外の取組
2. 国連大学の取り組み

1. SDGs達成に向けた内外の取組



持続可能な開発目標 (SDGs) (2015年9月)

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



17の目標と169のターゲットを
2015年9月の国連総会にて採択

SDGs策定の背景

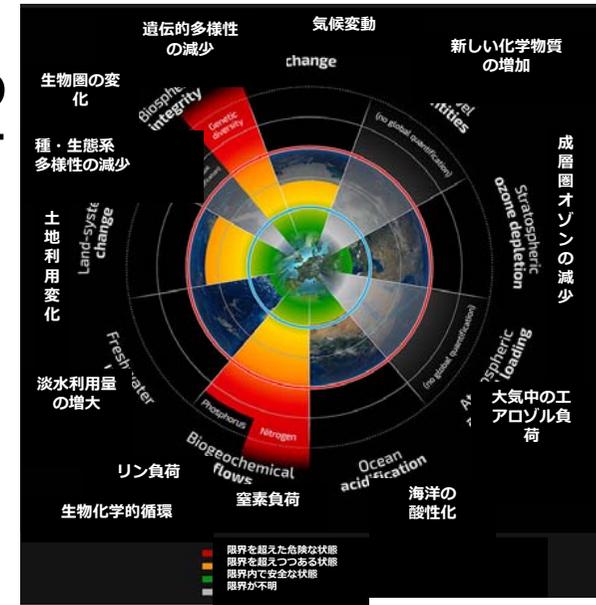
MDGsで積み残された課題への対処

目標と主なターゲット

<p>目標1: 極度の貧困と飢餓の撲滅</p> <ul style="list-style-type: none"> 1日1.25ドル未満で生活する人口の割合を半減させる 飢餓に苦しむ人口の割合を半減させる 	<p>目標5: 妊産婦の健康の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 妊産婦の死亡率を4分の1に削減する
<p>目標2: 初等教育の完全普及の達成</p> <ul style="list-style-type: none"> すべての子どもが男女の区別なく初等教育の全課程を修了できるようにする 	<p>目標6: HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延の防止</p> <ul style="list-style-type: none"> HIV/エイズの蔓延を阻止し、その後減少させる
<p>目標3: ジェンダー平等推進と女性の地位向上</p> <ul style="list-style-type: none"> すべての教育レベルにおける男女格差を解消する 	<p>目標7: 環境の持続可能性確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 安全な飲料水と衛生施設を利用できない人口の割合を半減させる
<p>目標4: 乳幼児死亡率の削減</p> <ul style="list-style-type: none"> 5歳未満児の死亡率を3分の1に削減する 	<p>目標8: 研究のためのグローバルなパートナーシップの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 民間部門と協力し、情報・通信分野の新技術による利益が得られるようにする

*人口は特定非営利活動法人ほっとけい「世界のまじしさが作成したもの」

地球システムの限界の共有



Steffen et al (2015) より作成



幅広いステークホルダーによる参加型策定プロセス



国際社会における取組

グローバル・レベル

- 毎年7月に国連本部において開催される**持続可能な開発に関するハイレベル政治フォーラム(HLPF)**において実施
 - ✓ 2017年7月には、日本を含む43ヶ国の国別レビューを実施
 - ✓ 2018年のHLPFでは目標6（水と衛生）、7（エネルギー）、11（都市）、12（消費と生産）、15（森林、生物多様性）についてのレビューを行う。

アジア太平洋地域における取組

- アジア太平洋経済社会委員会(ESCAP)による地域レベルでのロードマップ作成、加盟国のSDGs実施支援及び能力開発。
- Partnershipに関する指針を国連大学とESCAPで共同策定。
- 持続可能な開発に関するアジア太平洋フォーラム(APFSD)による地域レベルでのフォローアップ・レビュー（APFSD2018は3月28－30日に開催）。

アジア各国における取組例

- **省庁間連携・組織強化**
 - ✓ 実施責任の明確化（マッピング）
（インド）
 - ✓ 調整機構の創設
（日本、インドネシア、フィリピン、
トルクメニスタン、アルメニア、中国）
 - ✓ 専任省庁の創設（スリランカ）
- SDGsの**国内法への反映**
（インドネシア、パキスタン）
- SDGsの**国家開発計画・政策への盛り込み**
（中国、フィリピン、アゼルバイジャン）
- **各国においてSDGs実施計画策定の取組
が進んでいる**



（出典）ESCAP資料を基に作成

我が国における取組動向

日本政府の動き

- 持続可能な開発目標（SDGs）推進本部（2016年5月設置）
 - 総理が本部長、全閣僚が構成員を務める
 - 国内実施と国際協力の両面で政府一体の取組体制を構築
 - 省庁横断的に総括、優先課題を特定



- 「SDGs実施指針」の策定（2016年12月）
- 「SDGsアクションプラン2018」公表（2017年12月）
- 「ジャパンSDGsアワード」の実施（第1回：2017年12月）

第5次環境基本計画（案）

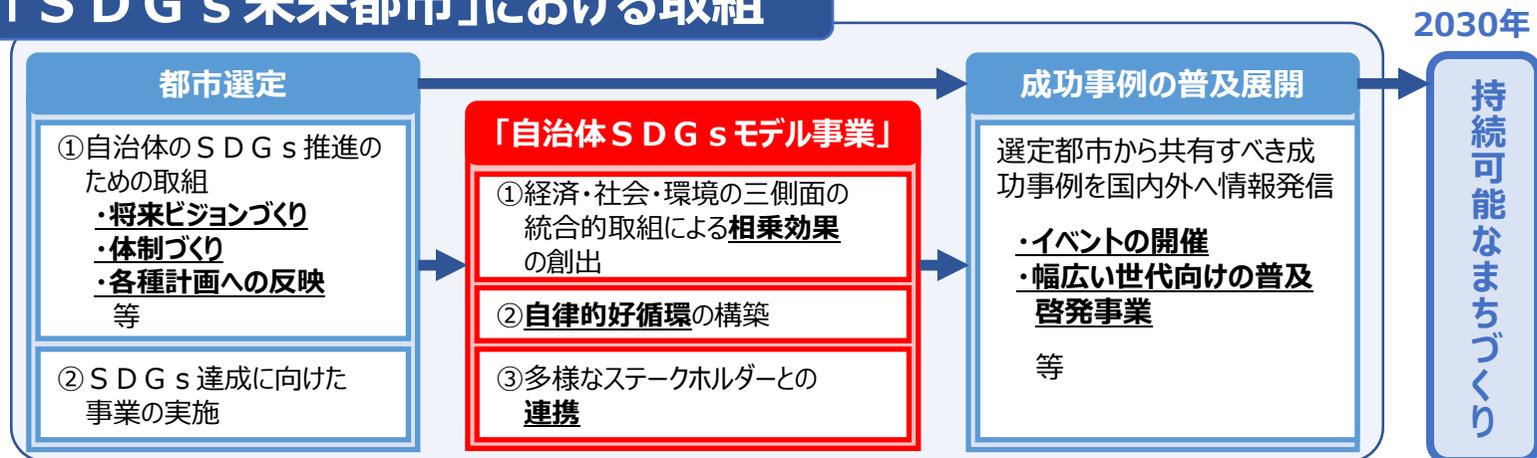
- 今後の環境政策の展開の基本的考え方：
持続可能な開発目標(SDGs)の考え方の活用
- 1. あらゆるステークホルダーが参画する「全員参加型」のパートナーシップの促進
- 2. 目指すべき社会の姿から振り返って現在なすべきことを考えるという思考法（バックカスティング）の重要性
- 3. 環境・経済・社会の統合的向上の具体化を進めることの重要性

地方創生に向けた自治体SDGs推進事業について (内閣府 地方創生推進事務局)

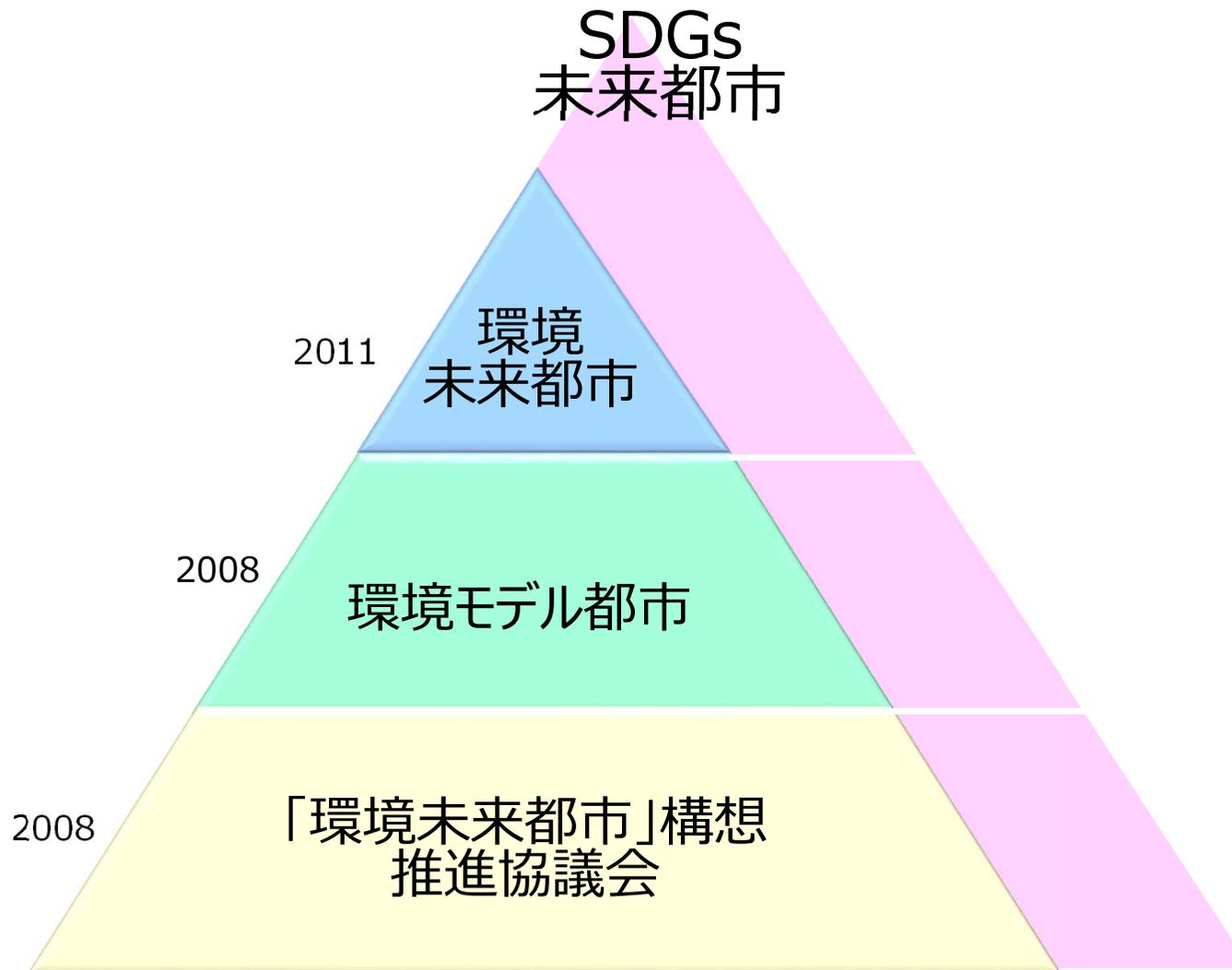
意義・目的

- 自治体における持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた取組は、地方創生の実現に資するものであり、その取組を推進することが重要である。
 - 自治体によるSDGsの達成に向けた取組を公募し、優れた取組を提案する都市を「**SDGs未来都市**」として選定し、自治体SDGs推進関係省庁タスクフォースにより強力に支援する。
 - その中で先導的な取組を「**自治体SDGsモデル事業**」として10程度選定し、資金的に支援する。
- 【30年度概算決定額5.0億円（新規）】

「SDGs未来都市」における取組



SDGs未来都市

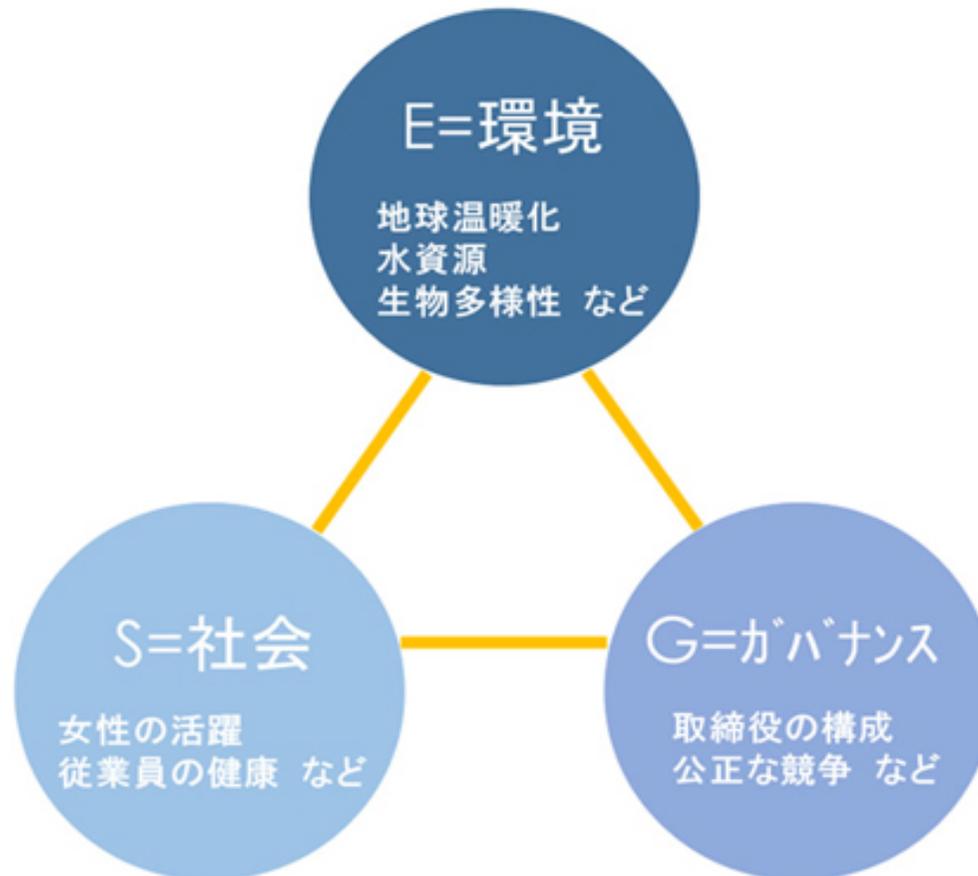


(出典：村上周三作成資料)

ESG投資

投資するにあたって、企業の価値を図る材料として、これまでの財務情報に加え、非財務情報である環境(Environment)、社会(Social)、ガバナンス(Governance)の3要素を考慮すること。

ESGに関する要素の例



責任投資原則(PRI)

機関投資家が長期的に投資することを促進する枠組みであり、国連が支援する取り組み。

投資の意思決定プロセスに、**環境、社会、企業統治 (ESG)**問題を考慮に入れることで価値を変える原動力となる。

原則に賛同署名する機関は世界で1700を超え、その運用資産は68兆ドル以上。

PRI署名機関が従う6つの投資原則

1. 投資分析、意志決定
2. 活動的な株式所有者
3. 開示
4. 働きかけ
5. 協働
6. 報告



責任投資の推進
(= ESGの組み込み)

株主行動
(エンゲージメント
議決権行使
投資/投資引揚)

PRI署名機関数の変遷 (2017年4月時点)



金融界における取組動向の事例

ESG投資とSDGsの関係

社会的な課題解決が事業機会と投資機会を生む



(出所)国連等よりGPIF作成

(出典：GPIF資料)

グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン（GCNJ）の 取り組み

- 国連グローバル・コンパクト※の日本でのローカルネットワーク（2003年12月設立）

※ 各企業・団体が責任ある創造的なリーダーシップを発揮し、持続可能な成長を実現するための世界的な枠組作りに参加する自発的取組。

- 264企業・団体が参画（2018年1月30日現在）
- 「SDG Compass：SDGsの企業行動指針－SDGsを企業はどう活用するか－」の翻訳（IGESと共同）／普及啓発

Step 1: SDGsを理解する

Step 2: 優先課題を決定する

Step 3: 目標を設定する

Step 4: 経営に統合する

Step 5: 報告とコミュニケーションを行う



2. 国連大学における取り組み



UNU-IASの取り組む主な研究プロジェクト

1. 持続可能な社会

教育と知識生成の取組を通じた持続可能な解決策の提案

- SDGsを達成するためのガバナンス（組織・制度のあり方等）
- 持続可能な開発のための教育
- 都市の水環境



2. 自然資本と生物多様性

生物多様性及び生態系サービスの持続的利用の推進

- SATOYAMAイニシアティブ国際パートナーシップ 等



3. 地域環境の変化とレジリエンス

気候変動への適応や緩和に向けた戦略策定

- 低炭素技術の移転
- 災害リスク軽減



国連大学における取組例 SDGダイアログ・シリーズ

- SDGsに関する議論を科学と政策の両面から進めるイニシアティブ
- 様々な専門家を迎え、それぞれの立場からSDGsの達成に向けたアイデアを議論する対話方式のイベント
- 議論の結果はポリシー・ブリーフ等を通じて公表

これまでの実施例

SDGs達成に向けた高等教育の役割

低炭素技術の普及促進

統合的ランドスケープ管理

科学と政策、能力形成

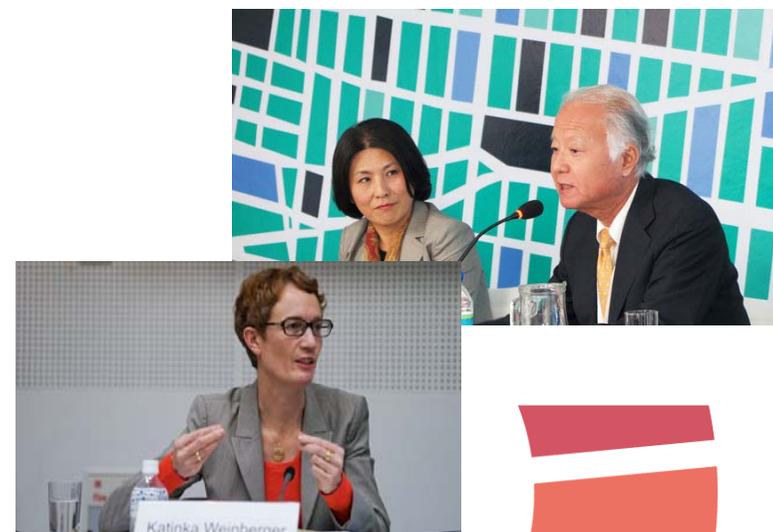
水関連システムのレジリエンス

アフリカにおける持続可能な未来

IIASAと日本

－「2050年の世界」プロジェクトを軸とした将来展望－

SDGs時代の企業経営



SDGDIALOGUE

SHARING IDEAS & INSIGHTS FOR ACHIEVING THE GLOBAL GOALS

SDGs目標達成に向けた 統合的実施方法の包括的検討

サブテーマ1：評価指標の構築 (国立環境研究所)

ポスト第5次環境基本計画を視野に入れた指標の検討

- 既存指標の包括的整理
- SDGsを活用した(環境・社会・経済面の)統合的指標の検討
- 指標の効果、意味等の検討

評価と統合した実施
／行動の創出

指標・評価手法

評価と統合した実施
／行動の創出

サブテーマ2：行政とSDGs (国連大学サステナビリティ高等研究所)

- 中央官庁の行政システムのありかた（国内外比較）
- 地方行政のSDGsによる変革のありかた
- 途上国におけるSDGs実施のありかた
- 政策と計測（自治体との協働）

サブテーマ3：企業とSDGs (慶応義塾大学大学院)

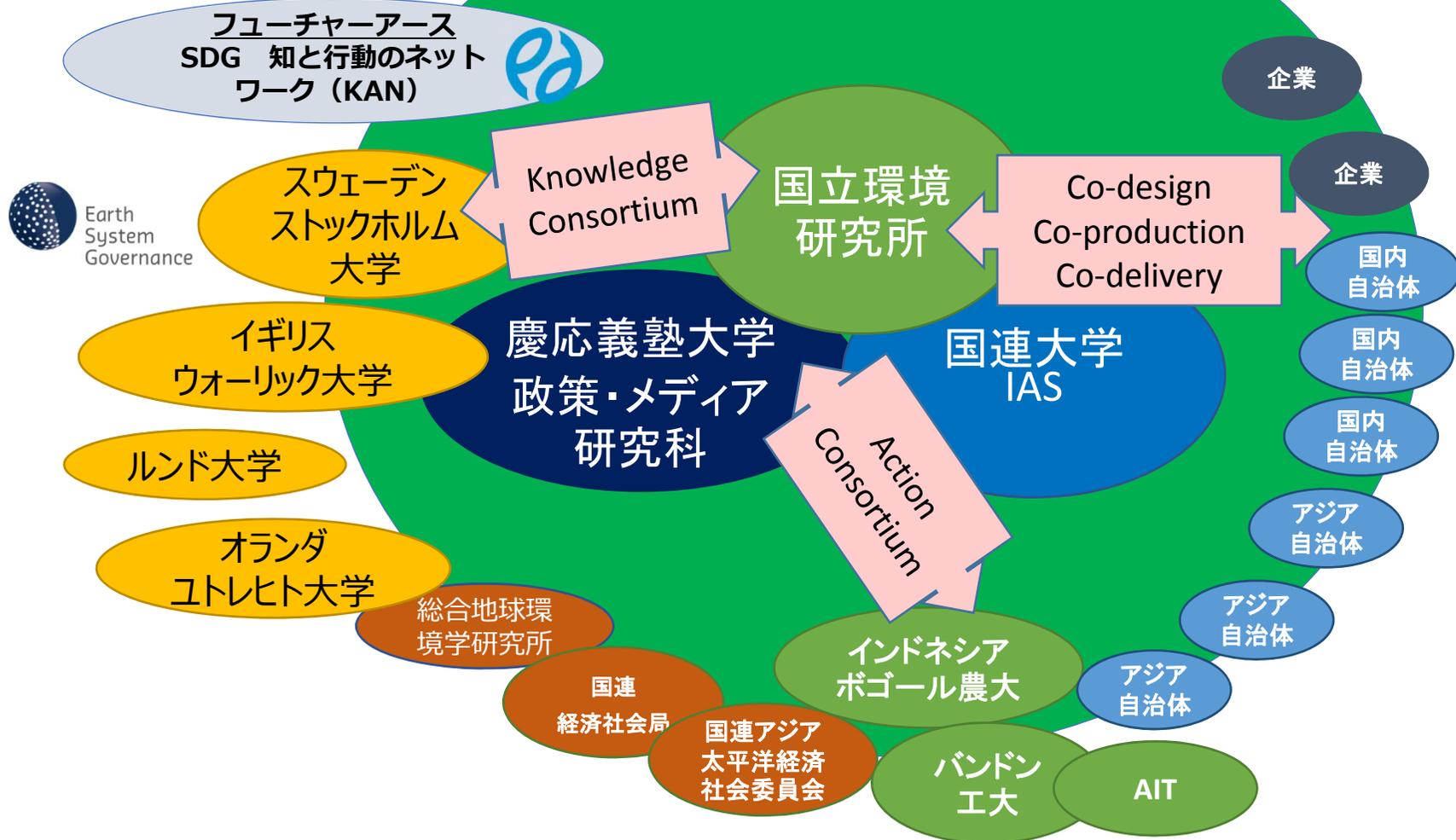
企業活動におけるSDGsの効果的実施と計測方法の検討

関連複数目標に整合的行動の分析に基づき、SDGsに基づく新たなプライベート・ガバナンスの創出と計測（企業との協働）、投資とSDGs

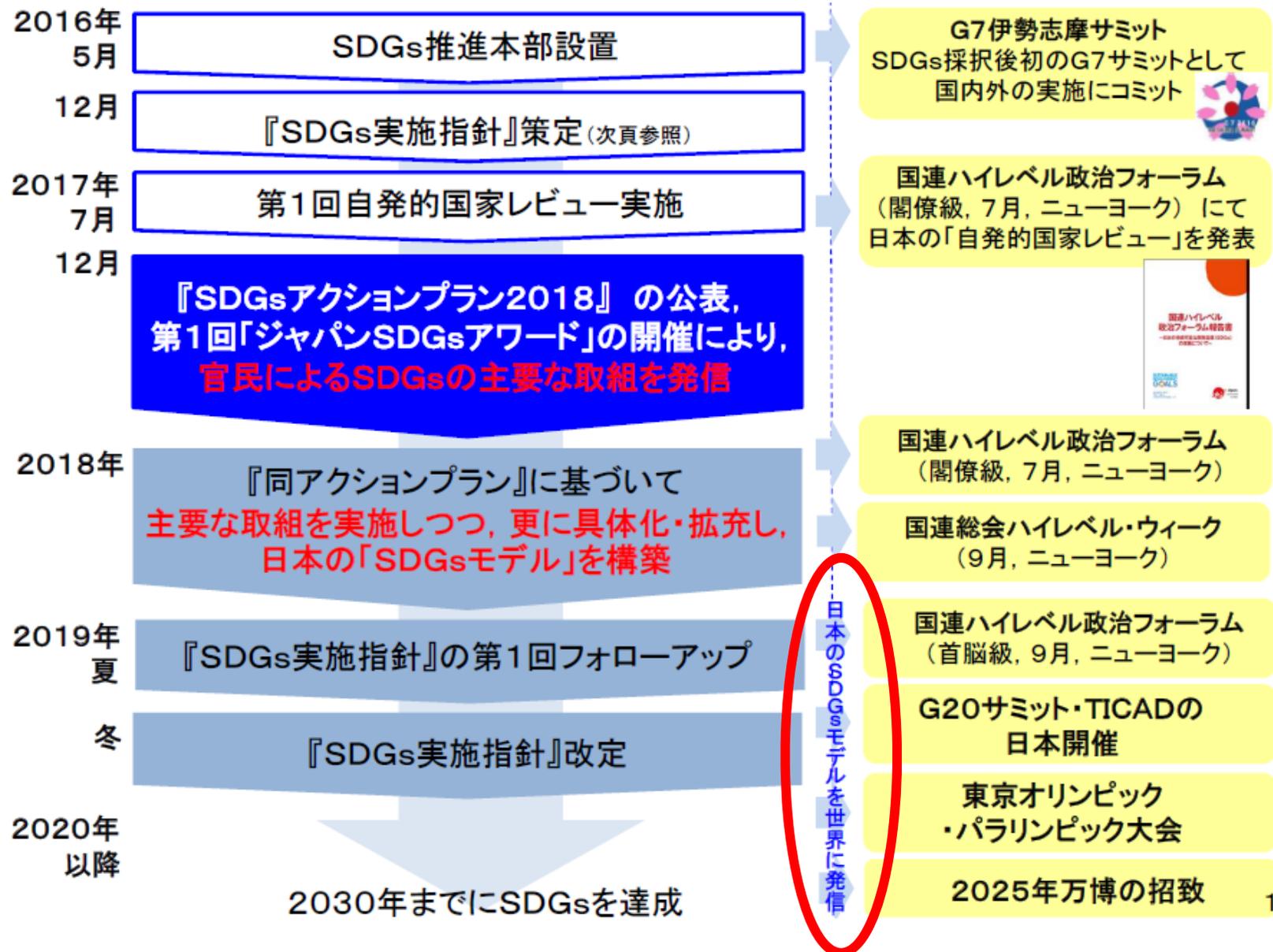
SDGs実施に関するステークホルダーとの連携でトランスディシプリナリー研究

連携

SDGsに関する研究機関
国際研究ネットワーク フューチャーアース
との連携で理論的検討



SDGs実施のための短中期工程表



(日本政府SDGs実施推進本部資料 (2017年12月) より)